

参加無料

地域連携
情報交換会

新しい地域連携の 取り組みと今後に向けて

— コロナ禍から得た知恵と工夫を今後に生かすために —

2021（令和3）年12月14日〔火〕

14:00～16:30 / 【会場】オンライン（Zoom）にて

【定員】100名（事前予約制）

今般のコロナ禍によって私たちの社会生活が一変する事態となり、地域連携活動のあり方にも大きな変化が求められています。このような未曾有の状況下で得たノウハウをこれまで紡いできた地域の繋がりにどのように活用していくか、官学における先事例などを共有しながら、今後の地域連携の在り方について共に考える機会とします。



対象

主に大阪府内自治体の公民（地域）連携担当者、大学の地域連携担当者、その他本テーマに興味・関心のある方

申込方法

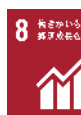
〔申込フォーム〕

<https://forms.gle/eF4qjfaupGsDj6mK7>
に必要事項を記入の上、お申込みください。



後日、参加者全員に大学コンソーシアム大阪事務局より「招待メール（ZoomのURL記載）」を送信します。届いた時点で申込完了となります。

申込締切：12月9日〔木〕



主催：特定非営利活動法人大学コンソーシアム大阪



登壇者

連携事業活動を通じて課題解決策や実践力を学ぶ

池田 千恵子氏

(大阪成蹊大学 産官学連携センター長・教育研究支援本部 本部長・経営学部 准教授)

大阪成蹊大学では、大阪府の北摂地域を中心に行政と包括連携協定を締結しています。「学外連携PBL」や「プロジェクト演習」、「専門演習」の授業において、行政への提案活動やノベルティの開発などを行い、学生の社会人基礎力ならびに専門的な学修の場を提供しています。その具体的な事例と体制についてお話しします。



IBAR EATS コロナ禍で動いた市民たち

木曾 稔之氏 (KoToサウンド 合同会社 代表)

2020年4月。新型コロナウイルス感染症が拡大し、初めての緊急事態宣言の発令される頃。行政からの支援が間に合わない中で、市民自ら『街のために何かしたい...!!』という想いで生まれた地域密着のデリバリーサービス『IBAR EATS』企画からたった1週間でサービス開始。市内の事業者へ希望を届け、市民に広く地元の飲食店の存在を知っていただきました。短期間で市民がどのように集まり連携を取って動いて行くことが出来たのかの裏側をお話しします。



「大正区・港区のものづくり」 公民連携の取組み

近藤 高史氏 (大阪市港区役所 産業振興担当課長)

行政マンとして公民連携を進めるにあたり心掛けていることや、これまでの業務の中で体験した内容を中心にエピソードを交え現場レベルのお話をさせていただきます。

コーディネーター



久 隆浩氏

(近畿大学
総合社会学部 教授、
大学コンソーシアム大阪
地域連携部会 推進委員長)

プログラム(予定)

時間	内容
13:50~	サイト開場 ※事務局からの「招待メール」にてお知らせしたリンクより参加してください
14:00~14:05	■開会挨拶・趣旨説明
14:05~15:05	■事例発表(各20分) ・連携事業活動を通じて課題解決策や実践力を学ぶ 池田 千恵子氏(大阪成蹊大学 産官学連携センター長・教育研究支援本部 本部長・経営学部 准教授) ・IBAR EATS コロナ禍で動いた市民たち 木曾 稔之氏(KoToサウンド 合同会社 代表) ・「大正区・港区のものづくり」公民連携の取組み 近藤 高史氏(大阪市港区役所 産業振興担当課長)
15:05~15:15	(休憩 10分)
15:15~16:30	■パネルディスカッション、Q&A ■まとめ・閉会挨拶



【問い合わせ先】特定非営利活動法人 大学コンソーシアム大阪

TEL:06-6344-9560 / MAIL:chiiki-renkei★consortium-osaka.gr.jp ※★を@に変えてください